

この度の創立五十周年ならびに校舎改築記念行事の実施にあたりまして、同窓会の皆様には暖かい御支援と御協力を賜りました事を厚く御礼申し上げます。

当日、御参列頂きました来賓をはじめ関係各位から、数多の貴賓の言葉を頂きました。生徒、PTA、教職員共々、大変感激しております。これも第一期生をはじめ数多くの同窓の方々が本校校訓「至誠一貫」の精神を貫き通された賜物と思います。特に、生徒は五十年の伝統の重みと諸先輩のこれ迄の足跡に触れ、深く畏敬の念を持った事と思います。

さて、平成六年度から新教育課程が実施され入学選抜制度も単独選抜制度と変わる事になりました。文京高等学校も、これを契機に新しい教育課程の編成、教育内容の精選に取り組んでおります。これ迄、諸先輩が築かれた伝統と栄光を二十一世紀に更に発展させるため鋭意努力しております。どうか、今後共よろしく御支援と御協力をお願いいたします。

「やった、大成功だ」次々と校門からキャンパスに入って来られるOBの方々の姿に、実行委員一同は歓喜した。

実はこの行事は、既に第12代紺野校長先生の頃から検討されてはいたが、創立50周年という重みのある式典だけに、満50年を多少過ぎても、全校舎が完成した時に「創立50周年・校舎改築記念」として大々的に行うことがよからうと意見の一致をみていた。そして平成4年10月17日が決定され、来賓・恩師・同窓生をご招待して新築成った校舎をお披露目し、これを機会に文京高校を大いにPRしようということになったのである。

ところで旧校舎になつてわかつたことが、当時として自慢のモデル校舎だった旧校舎の「竣工記念行事」が第3代奥田行信校長先生の下で昭和28年10月17日に開催していたことが判明して、なんと偶然の一致かと驚いたのだ。

記念式典の日程がきまり、学校・PTA・同窓会の三者一体の実行委員会が開始しはじめたものの、これだけの大イベントだけに何を企画しても不安が先行した。しかし、私達同窓会選出の実行委員は愛校心に燃える卒業生のみさんの多数の参加を信じて、イベントの準備に邁進した。

そして迎えた10月17日は、心配された台風もそして見事な快晴に恵まれた。この日キャンパスは人であふれ、式典、校内施設の見学会、祝賀会のすべてに互り活況を呈し、愛校心の強い文京高校OBの健在ぶりを目のあたりにした。

39年前の新校舎竣工記念日と一致といい、天候の恵みといい、

文京高校創立五十周年記念事業が盛会のうちに終了できましたことをとても喜びたいと存じます。他校での同窓会事業がありましたのが、同窓会の果たした役割において文京は特別だったように思います。とりわけ「同窓会のこと」は、これからの文京高校の地域社会とかかわりの核が感じられ、また今後の他校での企画にも生かされるものではないかと思うのです。

PTAは式典全体をとおして運営スタッフとしてお手伝いをさせていただき、同窓会の方々とのお付き合い、先生方の顔の面にふれさせていたただくなど全体的に理解が深まったと思います。

この周年事業は、学校と同窓会とPTAが一体となって運営できたことがこうした大成功を生み出した根本でありました。そうしたことを企画推進された同窓会役員の方々に今礼申し上げますとともに、文京高校同窓会の今後の発展をお願いし挨拶とさせていただきます。

この成功の際には本校建学以来の今はなき恩師の諸先生方のご加護があったものと信じて。列席者の道からも祝賀の声が聞かれたので、これに添えて私は、同窓会としてもこの日を「愛校記念日」とさだめて毎年10月17日に総会を開き、同窓生の講演を聴くなどして永久に結束の日とすることを提唱したい。

私事になるが私は、多忙な渡辺会長に代って前例のないこのイベントの仕掛け人ひとりとして目的を達成することが出来たことを密かに喜んでいる。もとより私自身は非力であるが、文京高校草創時代の卒業生有志の会「市三会」というバックがあり、この会に所属する同窓実行委員会各位の全面的なバックアップがあつての成功であつたことを銘記された。私を含め母校の一期生の実行委員連は、いわば同窓生の長男であり、その長男としての責務を果たせたことに今は大いに満足している。

この興隆の冷めやらぬ実行委員の諸君の中から再度ご苦勞を願ひ、編集委員をお願いして、紫雲・特異号を編纂することにした。この感動を止むを得ず出席できなかった全同窓生諸君にそのままお伝えしたためである。特に編集委員のみなさんは、記念式典の長い準備と後片付けで、たまりに溜まった仕事をこなされ、しかも年末という忙しさを背負つての編集作業であつた。本当に頭の下がっている。

さておわりに当たり、今回のイベントを支えて下さった多くのPTAの実行委員の皆様の大なるご協力に衷心より御礼のこたえを申し上げるとともに、「記念行事を終始」指導下さった歴代の学校長、教頭、教職員、事務職員の方々に深甚の感謝を申し上げ私のご挨拶としたい。

特集 創立50周年・校舎改築記念

特別寄稿



五十周年記念会に参加して

佐々木 益 男

昭和十五年・二十二年

一期A内田千里君と一緒に車を降りて、校門の前に行む。入口から続く煉瓦の色と体育館と奥に見える校舎の白さと対照の美しさが目をひく。体育館の前には聳え立つ大樑に、開校当時の校舎・校門などの佇まいが目には浮かぶ。すると、生徒の先頭に立つて、操体操の姿で校門を走る川島校長の晴やかな顔が懐かしく追って来る。気がつくに三期C藤谷敏明君が校門の内側に立ってこちらを見ている。



彼は案内されて控室に入る。生徒のお母さんたちが心から接待しておられる。学校、父母、卒業生が一体となって心から、この創立五十周年を祝っている様子に敬意とよろこびを感じる。

時間があるので、新しく完成した校舎をあちこち見てまわる。素晴らしい施設、設備である。それに多くの空間があつて、ゆとりを感じる。生徒の学習が促進された素敵な環境である。全く今昔の感にたえない。人は環境と相互作用しながら成長する。個性豊かな人材が、我々のこの学校から多く育っていくことを期待しながら、祝

賀会場に至る。

会場は誠意と熱気があふれている。あいさつ、報告を聞いていると、*Many may come and men may go, but I go on for ever.* 「人々は来ては去っていくであろう。しかし、私はどこへいとも進み行く」というテニソンの一句が浮かぶ。創立以来五十二年、幾多の変遷をくぐり抜け、校長、教師も来ては良いのを残して去ってゆき、生徒も来ては学んで去ってゆく。こうして、日々新たに、至誠一貫、文京高等学校は厳然と堂々と、ここしえにその道を邁みゆく。

想起こす草創の第三東京市立中学校時代

細 木 歳 男

昭和十五年・二十二年



大塚駅からの街路がすっかり変わって驚いた。創立当時の巣鴨養育院跡の市立三中は全く違った近代的学園がそこにあった。ただ校門を入ってすぐ目につく煉瓦の大本が昔のまま置っているのが唯一の昔を偲ぶすがである。祝賀会場に入ってみると創立当時の先生では佐々木益男先生がすぐ判った。懐かしさがこみあげて来る。八五歳で健康として教師として伝導に従っておられるのことに更に畏敬の念を抱く。創立当時の教師で生き残っているのは先生と私だけというわけである。その私もすでに年暮である。午後二時からのOBの祝賀会、何しろ創立当時十二歳の可愛い少年が今は六四歳の初老の紳士である。顔だけではさっぱり判らない。

記念式典に参列して

田 崎 幾 太郎

昭和十五年・二十二年

寛れた晩餐に、モテススタイルとしてペンダ付きの校舎が建った時、われわれは感激の眼でその建物を見上げ、教師も生徒も新たな意気込みで始業に励もうとしたものであった。

以来四十年、登校下校の度に見上げた顔吉の老木は益々その枝を繁らせてゆき、屋上から眺められた富士山の夕影も、立ち並ぶ高層建築の陰に見えなくなってしまう。このようにして歳月が流れ、人は年老い、校舎は古くなっていった。



老人は再び若さを取り戻すことはできないが、校舎は新しい時代の要求に応じて、立派に改築され、創立五十周年の記念式と併せて落成祝賀会が盛大に行なわれることになった。私は久しぶりに昔の同僚や、古い卒業生に会えるのを楽しみに、側から出かけて式典に参列した。

午後の同窓会主催の祝賀会には数百人の卒業生が集まり、こうした機会がなければおそく会うことはできなかったような古い卒業生に会えたのも嬉しかった。時間は時の間に過ぎて、一人一人と語り合う暇もなく終宴になったのは残念であったが、担任したクラスの二次会に誘われて、帰宅したのは夜の九時を過ぎていた。

学校は素晴らしい校舎に建て替わった。昔の不自由な環境でがんばった生徒たちが、社会の各方面に活躍しているように、このめざました施設で学ぶ生徒たちも、先輩に劣らず勉学に励んでいるように、と思いいつ、記念すべき一日を過ごしたことであった。

(現職・専業主婦)

だが姓名を名乗ってくると名前には不思議に思いつく。渡辺剛彰同窓会長、末正明市三会長は勿論尋知の同僚である。早川律三郎、原田重司弁護士も同じ法曹で高知でお逢いした。僕は二期生で漢文を習いました。白文帖を出せと言われて、ぞつとしたものです。という紳士である。あつと思いついた、漢文の教科書から、返り点、返り仮名のない漢字ばかりを帖面に写し取ることを宿題にしてその白文帖で読ませたり、返り点返り仮名の練習をさせたのだ。その宿題を忘れた者を叱つたり小突いた。今ならさしずめ暴力教師だったのだ。「先生、僕は課外の相模部員でした」という紳士もいた。これまたあつと思いついた。川島校長がこともあろうに一五五センチ五〇キロの小男の私に「君は土佐人で相模が好きだろう、課外の相模部を作るから指導しろ」と命ぜられて様になって、一二年生相手に胸を貸す真似ごとをしたものだった。中学生も三年生になると小男の私などとても敵わず大相模のプロの三段目あたりが来られるようになってはつとした。何しろあの頃は草創時代で私も何でやらされた。川島校長は書家でもない私に「至誠一貫石以テ本校校訓トナス」と題書させて、それを巻物にして学校行事のとき、うやうやしくその巻物を掛けて読みあげられるときは冷汗が出た。あの下手な私の字はまだ巻物で文京高校に残っているらしい(創立四十周年記念誌三枚目表写真参照)。早川君が車で送ってくると親切に言ってくれるのを断って、懐かしい山手線大塚駅まで歩いた。鈴木悟郎東京電機大学教授と一緒に。実に楽しくも懐かしい一日であった。教師をしていたことが本当に良かったと雲の上のジェット機の中で思い起こしながら何時しか寝て眠っていた。やはり歳は争えないか。

在職 昭和二十年三月

私が文京高校に就職したのは、豊島中学校であった昭和二十年三月三十一日付で、判任官六等、本俸九十四の辞令を貰った。校長は初代であった川島敬司先生。先生は私の中学時代の恩師という関係から、先生最後は人事ということで、渡辺実先生の後任として、私を採用していただいたわけ。赴任して驚いたのは、奥田、奥岡、河野、川島(計)といったこれまた私の中学時代の恩師が幹部教員として、校長を輔佐しておられた。したがって、私はこれらの先生には全く頭が上がりず、何かにつけて「菅野、菅野」といふ使われたこの時のあいつの経緯が私の後の活躍にプラスになった。



この赴任の年は、日本の激変期で、文京高校にとっても苦難の年であった。私の宿直の夜に、空襲で校舎全壊、先生、生徒共に疎開。その為沢先生が会計、私が庶務を兼務した。その間に、焼跡に急造のバラック校舎を建て、とにかく授業再開。やがて、丸中(今の北園高)の地下室その他の間借り生活。次が文京区関口台小への間借り移転。しばらくして本郷元町小への間借り移転。この時は生徒が机、椅子を徒歩で担いで運んだ。その頃は二代校長の野口彰先生が、

この校長の時、二部の小児麻痺後遺症の生徒が、学校のプールに転落死した。その責任を取って野口先生が辞任、三代奥田行信校長になる。そして新学制施行による校名変更、二十五年三月私の担任クラスから東大、一橋大その他国公立二十名、私大二十七名の全員合格。二十七年には新築成る今の地に移転。実に多くの思い出がある。

誠と自由と愛の学園文京高校

竹内 道雄

在職 昭和三十年三月



十月十七日に行われた文京高校創立五十周年・校舎改築記念日に際しては、式典・祝賀会など全ての行事に参加し、多数の先輩・同僚の教職員、同窓生、

教子子の皆さん方に久方ぶりにお会いでき、ついで私の全日制最初の担任であった「あすなう」同窓会にも出席でき、無上の喜びにひたつたことでした。文字通り、至誠一貫の精神をもつて実施された今回のすばらしい式典・行事について、学校当局並びに同窓会等関係者各位に改めて深く敬意と感謝の意を表するものであります。私は今年満古稀を迎え、これまでの自分の人生は教師の人生であったことをしみじみと回想しています。私が文京高校に在任したのは二六歳から四一歳までの人生の花というべき若壮年時代で気力体力ともに充実した時期でした。校長奥田行信先生をはじめ多くの先生方の薫陶を受け、至誠一貫の校訓のもとと自由と愛の心をもって教育と学園の一致を目指して、生徒諸君とは勉学に運動に、また文京祭の運動会・文化祭に楽しく有意義な思い出を多く生み出すことができたことをほんとうに嬉しく思っています。

私は文京高校を退職してからも、殆ど毎年、担任したクラスの会に招かれて出席し、社会的に立派に活躍されている教子子の皆さんに接し、敬慕しつつ教師別利に尽きる喜びを味わっております。私は、文京高校で教師生活ができたことに大きな誇りを持つと共に深く感謝している次第です。文京高校が誠と自由と愛の校風を愈々発揚し、益々多くの人材を輩出されるよう心からお祈り申し上げます。

(現職 愛知学院大学教員・理事)

同窓会に寄せて

渡井 栄一郎

在職 昭和二十二年三月



ある学校を卒業して上級学校に進んだらあるいはまた其社会に出たりすると、理由はいらうあるが、母校を訪れることもよくない。次第に母校から遠ざかるようになってしまふ。最近のように教育熱が高まり、幼稚園、小学校、高等学校、大学というような進み方をするようにになると、卒業後は、たとえてみると人生行路での一前場的な感覚でしか捉えられなくなってしまう。同期生や同級生の場合、は、同期生会とか同級会とかを聞いて田交を暖めており、これはこれで大いに結構なことではあるが、

これとても母校との直接的な繋がりやはいりうすくなることに変わりがない。そこで、同窓生全体の連繋、親睦を深めかつまた母校との疎遠化を防ぐため、同窓会の在り方について再考してみたい。どの学校にも同窓会とか校友会とかいう同じような会があり、その運営方法も似たようなものであるが、何か公式化されているようなところがあつて物足りない。今度の文京高校創立五十周年、校舎改築記念の集いが大成功裡に終わったのを見て、同窓会も運営方法を考え直せば、同窓会の活性化ができると思つたのである。要は積極的に参加したくなるような出題し甲斐のある会合ができればよいのである。もちろん、このためには、学校当局に積極的な援助をお願いしなければならぬ。また同窓会役員、同窓会費、同窓会場その他見直すべき問題が多々あるが、この辺でわが文京高校同窓会が他に先駆けて同窓会の活性化に取り組んで頂けたらと考える次第です。

「わが文京」

吉野 哲也

在職 昭和二十八年三月



久しぶりで校門前に立ったとたんに、思わすうな声を上げてしまつた程に素晴らしい校舎、庭園等々、グラウンドもテニスコートも間もなく新設されるということで工事が進められていました。が、「わが文京」が見事なまでに立派になるのを目の当たりにさせて頂いて、ただただ嬉しくなりました。また、自分の息子が成長していく姿を目を細めてここにこに見ている息子がした。

どこかが眩しい程に輝く校舎内をご案内しながら、かつて「文京に骨を埋める」覚悟で務めさせて頂いた十七年間を本当に懐かしう思い出させて頂きました。

テニスの練習よりもコートの掘り返しで手にもめを作ったあのテニスコートはこの辺だったなとか、野球部の強打者がいい音を聞かせてくれる度に担ぎあげたあの校数を算定し、棟梁(渡谷先生)のあとについて屋根瓦を修理したあの水道の体育館はあの辺だったなとか、なかなか底まで潜れない程深いプールの底面に彼女と自分のイニシャルを書いて歓声をあげていた例のプールや雷に打たれて震けたボラの大樹はこの辺にあったなとか……

過ぎし日を懐かしう語るのには年を取った証拠だなどとひやかされそうですが、なぜか古い校舎の在りかを確かめながら、かつて一緒に汗を流し合った多くの卒業生や同僚の顔や声やしくきまでもをありありと思ひ出していました。嗚呼、「わが文京」。

(現職 都立竹首高等学校教員)



在職 昭和十九年・一九九四年

文京在任二十年のうち十七年間を担任として過しましたので、その原点ともいえるべき最初のクラスのH R活動のいくつかを思い出してみたいと思います。一年夏のH R合宿のこと。クラス独自の企画に気遣いしたものの、職員会議で、自費で引率したところで引率責任の問題は免れないと指摘されて立往生。その時大先輩のK先生が自ら引率の応援を申し出て実施への道を開いて下さったのです。八王子青年の家に宿泊し、一日目は登山、二日目は討論会（恋愛について）、というもの。私的な合宿というのに、何と真面目だったことでしょう。

この時のクラスは委員選出や席替えなど事務的なことはショートH Rや放課後に行い、H R委員を中心に独自の企画を次々に出してきました。北海道十勝地方の大冷害の際には、クラス全員で大塚や池袋の駅頭で募金活動を行いました。これは数ヶ月後、そのお礼にと箱一杯の香りの豊かな鈴蘭が送られてくるという思いがけない感動をもたらしてくれました。クラス主催のベトナム映画会もやりました。極めつきは後期中等教育に関する答申が出された時でしょう。生徒たちは全文を、ギリ切りして印刷し、二ヶ月連続討論会を行なったのでした。

二十年の間には時代も生徒たちも大きく変化していききましたが、語り出せば思い出はつきません。いずれにせよ、生徒や先生方に支えられつつ自由で暖かい雰囲気、文京高校で二十年間を過ごしたことを今更ながらに感謝しております。



おおよそ二十二年ぐらい前、文京高校創立五十周年、校舎改築記念行事のための校内実行委員会が設置されたことになり、四名が職員会議で選出されうちは二人は村岡先生と私でした。そこで横先生（当時教頭）から村岡先生と私が記念誌担当を仰せつかりました。校内の編集スタッフは五人となり編集長は勿論、村岡先生です。編集長の基本方針は「事実としての資料」。

それも昭和十年代後半、昭和二十年代の資料を特に集めたいということでした。

しかし戦災、引越し等々資料は無きに等しかったのです。ために田職員、同窓会の方々のアンケート、同窓会の集いでの記事の振り出し等すべてが同窓会の方々へおんぶに担いで。ここで厚く御礼申し上げます。中であつては村岡編集長の寝食を忘れた飲を除く一努力はことばにありません。彼の機嫌をとりまわす。おいしいお酒を頂きながらの記憶を確かめる会、懇話会等々今もつて忘れられず、米市三会長さん、静谷先生にはお礼のことばもございません。そのような会にお招き頂いたとき、文京創刊期の頃の同窓生の方々が母校に対する熱情をお一人おひとりが様にもつておられることに私は深い感動をうけました。それは何なのかついという思いが今も私の心にあります。そしてそれを感じて私は恥ずかしうなりました。記念誌の頁をあけるといつも腹膨らしたお酒の香りが漂ってまいります。さて記念誌の編集に当たって私は何をしたらか。編集長と基ばかり打っていたのです。基を打っていたらいつのまにか記念誌が出来上っていた。これが私の自慢です。現職 昭和四十二年より



創立五十周年を迎えたことを、心からお慶び申し上げます。新校舎落成記念とともに行なった記念式典も、関係の皆様のご援助、ご協力によって無事に終わり、慶賀の至りです。

この五十周年の間、社会はめまぐるしく変わり、生徒や教員も年々変わりましたが、文京高校が、世に誇り得る学校として発展してきたことに変わりはありませんでした。

これは、第一期生からの同窓生が素晴らしい実績を挙げ、良き伝統を築いて、これを連綿として受け継いできたことによるものが大であると、同窓生の皆様に改めて敬意を表します。

しかし、都立高校のあり方が問われている現在、五十周年を迎えて、ただ半世紀を回顧するに終わることなく、今後の文京高校の飛躍に向けて、関係者一同が努力したいものと願っています。その意味で、新校舎の完成は、誠に良い機会だと思っています。

旧校舎は近代的な造りで、かつての高校のモデルスクールとしてあまりにも有名でした。新校舎も明るく、堂々としており、これからの文京生を育み、生徒ひとりひとりの力を伸ばしていくのに十分な容れ物であると思います。改築にあたっては、かつて卒業生や教員が植え、見守ってきたヒマラヤ杉やけやき等の木々の一部が、止むを得ず伐られるという残念なこともありましたが、新校舎完成を機に、過去の五十周年のすべてを糧にして、文京高校が限りなく発展するように祈るのです。



この度の記念式典に参加させていただき有り難うございました。たいへん立派な式典に感動いたしました。私は丁度改築の始めから完成寸前までの五年間文京高校にお世話になりました。その間に私にとつてたいへん多くの学校関係者のご援助をいただきました。同窓会、P T A、田職員の方々など文京高校のために何かお役に立つてもらえんと思うときは厚かましくお願いをいたしました。お詫びや感謝申し上げます。

時代の変化でしょうか、人と人とのつながりが段々無機質になつていくのは個人主義の世の中では仕方のない流れかと思えます。学校もその例外ではないのかもしれません。ただ私は厚い同窓会名簿を見て文京高校の歴史を感じました。その中に流れるこの学校で過ごした熱き思いはきっとみんな共通に持っていたに持っていると思えました。ところが残念なことにその流れが非常に希薄に思えます。正直申して、先生方も同窓会の方にも。若い人は、もちろん生徒も、人間は多くの人との離れ合いによって成長するものです。子供は多くの人に暖かく包まれていると感じたときに頑張ったり、厳格や努力を自然の中でしていくものだと思ふのです。そこで私は先生とP T A、P T Aと同窓会、先生とP T Aと同窓会と出来るだけ生徒のためになることで会合を持ち話し合ってもいいました。

今後、この記念式典で培われた人と人との絆を、一層太くして、いって、「若いも若きも」一堂に会して声高らかに文京高校「こ」にあり、とそんな日が五年に一回くらいあつてもいいのではないかとと思うのです。

母校文京高校にとり、創立以来52年目で初の本格的な周年行事のご成功を心からお慶び申し上げる。



（い）なかつたかな。戦時下での機体操、勤務員体制下でも、個々には勉学にも集団生活にも結構楽しんで通じたのではなかったかと思う。

六年でファッション化を完了し、レベラアップに成功しています。数年前、都立高校でも実際に行われていました。板橋高でチェックのスカートを含み複数の制服を決め実施しました。それまで年々入学希望者が減り、平成元年には定員二百七に定員二百三十六、実際に受験した者百八十八で、競合していた志村高に選ばれましたが、制服着用の次の年は、学区最高の競争率を記録し、四百五十二の応募にあり、レベラも回復しました。また九段高も学区の枠から離れた独立校になり、今年から新しい制服になりました。

平成六年度から都立入試も新しくなりました。十一年位前中央区で中学が統廃合され、今また千代田区で小学校の統廃合もめています。都心にある学校は生徒の激減で数年先は日比谷高も、番町小学校と同じ運命を辿らなければならないでしょう。同じ区内の錦華小学校の最後の開校記念日には、秋篠宮殿下と妃子殿下がお見えになったと、と先生から聞きました。今度の新制度では、隣接の学区からの受験を認める事になりましたが、これは都心の過疎化による各門都立高の廃校の防止と考えると、この事は四半世紀前の状況に一つ近づいたと思います。渡辺同窓会々長の挨拶での談話によると創立一期生二百人中三十人以上が東大へ進学したと、また同窓会誌によると群制度以前の昭和三十八年の春には三百九十八人が卒業し、東大五、京大四、一橋三、東工大二、筑波八、早稲田五十二、慶応十二、上智十一を含む国公立大七十八、私立大二百三十八、短大十九の計三百三十五名の合格者が確認と記録されています。

新制度発足、新校舎完成、創立五十周年記念行事大成功の、この機会に学校・PTA・同窓会が一九となつて、都立文京高校発展のために頑張りました。

ら続けて頑張れば、社会も会社も必ず活性化すると考えたい。

（都立文京高校学校案内）について



都立有名高校集中を弱すため昭和四十二年四月より（群制度）が敷かれて十五年、五十七年からはそれを少し緩和した（グループ制）に変更して十年、計二十五年の四半世紀を経ました。尾形打ち枯らし

た都立高校の人気は存じの通りです。

今から十一年前、市三代表の末正明君に、多くの私立校が学習塾に毎年（学校案内）を郵送して来るが、文京でもやたら如何にか。と通言したところ、学校当局、同窓会と採択され、最初の二年はモノクロで、その後カラーで（文京高校学校案内）を第四学区の文京・豊島・北・板橋区内二百の塾に毎年九月に郵送しています。塾の盛衰も激しく、前年は届いたものが六パーセント程が返送されて来ます。今年NTTのタウンページが第四学区と同じ文京・豊島・北・板橋区になり、学習塾を数えみると十年前の二倍の四百塾になっていました。以前は小学校五年生からが多かった塾生も今では小学一年生から来る子も珍しくありません。

さて都立高の人気衰退に反し私立校の人気は目覚ましく、中でも女子校の人気の一つに制服のファッション化があります。大手出版社が出す「米年度高校受験案内」には各校の制服を着た高校生姿がグラビア頁に掲載され、これを見て中学生が胸を膨らませ、憧れる時代になっています。志願者が増えれば、自然と優秀な生徒が多く集まるという具合です。既に通平数の私立女子校では、ここ五、

創立五十周年に想う

創立五十周年記念式典と同窓会による祝賀会が、澄みわたる秋空のもと、清々しく整った新校舎で盛大に挙行されました。心からお喜び申し上げます。

祝賀会の開会に当たり、物故された恩師ならびに同窓生のために黙祷を捧げました。あらためて、戦中戦後の激動と発展の中で活躍され、亡くなられた方々への惜別を深くすると共に、生きていくことの幸せをつくづく感じさせられました。



会場の体育館は、草創期の恩師をはじめ、現役の教職員と、数百年の同窓生の明るい談笑と歓声に満ち溢れ、同窓会が始まって以来の素晴らしい、心に残る盛り上った祝賀会でした。

この喜びの中で、五十年前の様々な生活が蘇って来ました。養育院時代の古い校舎、当時珍しかった完全給食、一列並行の登校と毎日二人身持の朝礼、夏の妙高山の全校合宿、敗戦までの長期工場勤員と二人の親友の事故死、空襲による焼土化と敗戦、瓦礫の中の授業と市街地焼け跡片付け勤員、元町小学校での授業などが次々と浮かんで来ました。同時に、敗戦で得た平和と自由、明日に生きている希望が持てる生活の到来に感動したことも、思い出しました。

さて、平成六年度からの単独進抜は、必然的に各高校の特色ある個性化を要求してきます。今こそ文京の整った環境と最新の施設設備を生かし、五十年の風雪を貰った校訓、至誠一貫、を柱に。魅力ある文京の教育を創造する時だと思ひます。生徒・教職員・同窓生と共に、今以上に誇れる学校となるようご発展を祈念致します。

激動の時代を生きる

アメリカの大統領選挙も、変化。を求める民衆の声が、若き四十代の大統領を一国のリーダーとして選出した。時代は変化を求めて激動しているのが常であり、所詮、私たちの人生もまた、変化、変化の連続の中にあるといえよう。

昭和12年に入学した小学校は、尋常小学校だった。それが卒業する8年には、国民学校に変わった。



中学への入学は、東京市立三中、戦国朝に背のうを負い、ゲートル巻いて、大塚駅から一列登校など夢物語に近いが、やがて、東京都になり、都立豊島中学校となる。

軍需工場への勤員、授業はなし。戦災で丸焼けになった大塚の焼け跡に、瓦礫の残片付けや、土管を割って便器を造り、プレハブ校舎を作ったなどは記憶にあるが、授業の記憶は余りない。

やがて、文京区本郷元町小学校へ移校。これも災天下で、他校から机や椅子をもらって、かついで歩いた記憶の方が鮮烈で、どうも勉強した思い出は少ない。

悔しい思い出を一つ、豊島中学から早大第二学院へいった私は、中学は中退、新制大学へ二年で移行、当時母校の文京高校の図書館に勤務したが、東京都職員の資格は、最後まで小学校で給料は安かった。これはど学歴で差別だけなく、人間性、智恵をみがき人格を育てることであり、激動の時代に、教育の原点を見た思いがしたの。同時代に生きた友人たちの共有財産ではないかと思っている。

（国語学会会長）

青春の舞台

五期B組 村 口 昌之

去る十月十七日の式典と同期に、先生方（菅野、中谷先生）と懐かしい旧友達に出会えて、白髪まじり、シワの多い貫珠の笑顔の中に昔の美少女、美少年を見出し、お互い楽しい思い出の一時を過ごすことが出来ました。新制五期の我々が岸本氏、各クラス幹事の方々のご尽力に心より感謝いたします。職業柄ということで、母校の新校舎の印象が大人に良かったことを報告いたします。折戸通りから正門を入ると、樺の太木が鬱蒼と茂って、駅か細いビルルの立ち並んだゴゴミミした街を通過して来た目には、レンガタイル敷きの中庭をとり囲んでコの字型に建てられた四階建の校舎が、落ちて着いて新鮮にうつりました。植栽の緑も美しく、中庭の広場等も学校というよりも、何やら公園の趣でした。右側が屋上にブルのある屋内体育館、左側が食堂棟ということで、校舎も正面にある学生玄関の外壁をひきしめている屋上のゆるくカーブのついた緑色の屋根が、堅さを消しています。

二十五年に入学したのは水道橋の焼け跡に建っていた元町校舎、当時モデル校舎の大塚に二十七年に戻りました。先輩の方々は焼けてしまった本道校舎で学ばれた由、皆が役者だった学園生活の青春、舞台は変わっても、何かが伝えられてゆく、でしょう。



母校の今後の繁栄と、皆様方のご健勝を心より祈ります。次の同期会は還暦の祝いと兼ねてという話に、もう少し早くしないと……という声も聞こえて

（日本工業大学教授 村口昌之氏設計事務所）



この大盛況裡に終った50周年式典の裏方の一人として、一筆記しておきたい。

平成4年2月、今回の祝賀会の実行委員会に出席した折には、同窓会員の申込はまだ百名余に過ぎず、同窓会幹事の対応も非常に冷やかな感じであった。当時の権学教頭から同窓会に申し込めを促す要請がなされ、田副一朗先生の末正明氏が任しておけと請け負われたが、正直のところどうなることやら全く不安であった。ところが、直ちにPTA実行委員メンバーとの接合を開始、動き始めた。ところが、その後間もなく、3月末で後援者協賛校がご退席、権教頭もご転出という最悪の事態となり、末さんを中心とする同窓会側にも焦りが生じた。6月の同窓会幹事会で、全く動けない渡辺同窓会長に代わって、末さんが実行委員会委員長を依頼され、同窓会を代表して準備を推進することとなった。余すところ僅か一〇〇日。この時点での参加申込一五〇名。この日から末氏を中心とする同窓会有志の我武者羅な猛進が始まった。法面の都合で記載出来ない謝意がPTA役員の方々のご協力は大変なもので、ここに心からの感謝を申し上げる。

色々の批評はあろうが、学校が始まって以来の祝賀会の盛況の陰に、末さんを中心とした同窓生有志のご尽力があったことを報告し、同窓会がこれを機に更に更に発展することを期待したい。

（内科 静谷アツシ）

「昨日」「今日」「明日」

五期C組 時 田 公代

「カーン・カーン・カーン……」都電のシグナルと野球部の泥まみれの姿が交錯し、ふとグラウンドに目をやると、そこには国技館の数千倍とも思われる土浪が、思わず目をみはった。昭和63年の秋より始まった母校の改築工事の最後の仕上げのグラウンド整備の様子である。小生が文京高校で、再建自由会会長の職を務めてから奇しくも20年の歳月が経ったのであった。さきの50周年記念誌で現職藤井自治会長が、「我等」文京高校自治会を最後の誓として、名実共に生き返らせる事を次代に託したい」と語っている姿を見るにあたり、心に熱いものが流れるのを感じた。

今日この日を省みれば、最上の一日である事もあるであろう。また、心のページから取り去りたい程の悲しく、つらい一日であるかもしれない。しかしながら、「今日」という日は、「昨日」からみれば「明日」であり、「明日」からみれば「昨日」なのである。つまり、「昨日」の成功は、「今日」への活力となり、「今日」の失敗は、「明日」への礎となり、かつ希望へと繋がつてゆくのである。過去の歴史や経験、成功や敗北、喜びや悲しみ等々を、人は必ず持つっていると同時に、未来への希望や、チャンスや、チャレンジをも持つことを許されている筈である。



我々の先輩が築きあげた「至誠一貫」の校訓のもと、自由で、自主性に溢れ、心豊かな「文京学園」の諸兄を前に、同窓の諸君におかれは、是非とも、希望と活力に溢れながら生きていきたいと祈る今日ではある。365日は「今日」から始まるのだから……（静谷アツシ代表取締役）

「あなたは散々母校に迷惑をかけたのだから、同窓会幹事にでもなつて少しは恩が返らないかい？」教室中に爆笑と拍手が起り、満場一致の決議をもって私は同窓会幹事に任命され……卒業式の日はやがて、月日の経つのは本当に早いものです。先日の創立五十年記念式典には残念ながら出席することができなかったのですが、非常に多くのご来賓並びに同窓生の出席により盛況を極めたこと聞いております。一同窓生として喜ばしく思うと同時に、大したお手伝いもできなかった事を心苦しく思います。私は現在、大学時代に設立したマーケティング会社を友人や後輩達に囲まれ経営しております。文京時代の友人や後輩も集まってくれており、頑張ってもらっています。お世辞にも順風満帆とは言えないのですが、社会の荒波にもまれながら航海中です。文京の友人、先輩後輩に助けってもらうこともしばしば。そんな時、同窓の有り難みを心から感じます。人と人との繋がりを持つものは、今に繋げてもらってばかりですが、いつか私もお役に立てることがあるかもしれません。そう思い、微力ながらこれからも文京高校同窓会のお手伝いをさせて頂くつもりです。新校舎はすっかり様変わりしましたが、本立にはまだ当時の想い出が漂っています。校門前には、高校時代の恩師高瀬先生は、でも、まだ母校への恩返しは終わらずともあります。でも、これからの私を見ていて下さい。それから、お体には気をつけて。」

【南コラージュ代表取締役】



在校生挨拶

全日制生徒代表 田中 武

本日は、ご多忙にもかかわらず多数のご来賓の皆様のご臨席を頂きまして、まことにありがとうございます。私達在校生と致しまして、この五十年という節目の式典に参列出来まことは、大変な光栄であり、うれしく思います。

ところで、本校は旧制中学校として創立以来、この五十年の間には太平洋戦争や終戦後の学制の改革、何回かに及ぶ入試制度の変更などの幾多の内外のつり変わりがあったと諸先輩方よりうかがっております。歳月の流れと、このように本校が激動の時代を歩んで来られたことを考えますと、感慨無量の念を禁じ得ません。一方、こうした中であつてこれまで一万七千人もの卒業生が生まれ、そしてこれからは果立って行くこととしております。その最も新しい世代の一員として、私達はこれまでの歴史とこれからの未来に対し、今ここに緊張の思いを新たにしております。

さて、これからの文京高校はどのよう



大好きな文京高校

都立文京高等学校創立五十年、誠におめでとうございます。おたくしの文章ごときが記念号に載るなんて恐ろしくて……。ただただ母校、文京高校、が大好きなのでその想いを書かせていただきます。

私が文京高校を卒業して早七年の月日が過ぎましたが、文京が過ごした三年間は私が二十五年間生きてきた中で一番楽しく輝いていた（と思われ）三年間でした。その時は辛いことも、悲しいことも沢山ありましたが、今となっては全てが楽しく思い出されます。毎朝異常な程早起したスロップ大会、雪の残る体育館の裏を走ったマラソン大会、ビニールひもを置いて作ったボンボンを持って屋上や渡り廊下で集団演技の練習をした体育祭、吹奏楽部とクラスの仕事掛け持ちして校内外をバタバタ走り回り忙しさを楽しんでいた文化祭、遠足、修学旅行、吹奏楽部の演奏会……とにかく思い出いっぱい



私達が、青春を過ごした校舎も今では見えない程ビカビカになり、先日記念式典で学校を訪れた折にはスリッパを履いて校舎の中を拝見させていただき、土足で走り回っていた私としては少々寂しく感じましたが、真新しい校舎で、青春を過ごせる今の生徒たちをうらやましく思いました。校舎は新しくなりましたが、私達卒業生を見送ってくれた木の木が今も変わらず茂っていることを嬉しく思います。

これからの文京の発展も木の木が見守ってくれることでしょう。

更にすばらしいものにして行きたいと存じます。

それでは、以上をもちまして甚だ簡単ながお祝いの言葉とさせていただきます。

平成四年十月十七日

お祝いの言葉

定時制生徒代表 田中 鶴和 香

本日は、都立文京高校創立五十年、並びに校舎改築記念式典、本当におめでとうございます。

定時制生徒を代表して、心からお喜びを申し上げます。

私は、平成元年に、この文京高校定時制に入学しました。その頃は、ちょうど、新校舎が建築中だったので、一年間、旧校舎で過ごしました。

随分古い建物だったので、夕方、学校へ登校する時は、もう、辺りは薄暗くなつてきており、よくお化け屋敷のように感じたことがあります。



当時は、教室が、この体育館の場所になりました。三年経った今、こんなに変わってしまったものなんだ、と思いながら、あの頃のことを、懐かしく思い出しています。

正門を入って、すぐ右側のいちごの木があります。秋になると、たくさん実のぎんなんの実で、木が賑やかになります。定時制では、給食があるので、そのぎんなんの实った茶碗蒸しが出され、それを

GRAPHIC REPORT
記念式典

平成4年10月17日
母校体育館



火



吹奏樂演奏：本校吹奏樂部



紀念講演・末利光氏

食べるのがとても楽しみます。

このいちやうの木を、私達は、文京の木と呼び、たいへん愛着を
持っています。

さて、新校舎が落成し、初めて見た時は、どこかの私立高校のよ
うな感じがし、なんとなく違和感があったのを覚えていました。しか
し、この新校舎にも、今では、すっかり慣れ自分の家のように感じ
ています。

今、思うと、校舎や体育館が、一つずつ落成するにつれて、私達
も順々に進級してきたような気がします。

そして、来年の春には、もう、卒業です。

四年間、何れしかったこと、つらかったことなど、様々なことが
ありました。例えが、学校をやめてしまいたいと思ったこともあり
ました。しかしそんな時、この文京高校にあるたくさんの緑を眺め
ていると、自分の気持ちに落ちついてきて、よし、最後までがんば
ろう、という気持ちになって、今日まで通い続けることができました。

そして、このような気持ちを持てるようになったのも、先生方や
多くの友達を支えがあったからだと思います。卒業しても、文京高
校で学んだ多くのことを、いつまでも恐れずに、未来に向かって大
きくはたいていきたいと考えています。

最後に、文京高校がこれまで培ってきた伝統や校風をより発展さ
せて、さらに素晴らしい良き学舎になるよう心よりお祈り申し上げ
ます。

本日は、おめでとうございました。

平成四年十月十七日

[illegible]

GRAPHIC REPORT
記念式典

平成4年10月17日
母校体育館



式(1)



吹奏樂演奏・本校吹奏樂部



紀念講演・末利光氏

食べるのがとても楽しみでした。

このいちやうの木を、私達は、文京の木と呼び、たいへん愛着を
持っています。

さて、新校舎が落成し、初めて見た時は、どこかの私立高校のよ
うな感じがし、なんとなく違和感があったのを覚えています。しか
し、この新校舎にも、今では、すっかり慣れ自分の家のように感じ
ています。

今、思うと、校舎や体育館が、一つずつ落成するにつれて、私達
も順々に進級してきたような気がします。

そして、来年の春には、もう、卒業です。

四年間、何れしかったこと、つらかったことなど、様々なことが
ありました。例えが、学校をやめてしまいたいと思ったこともあり
ました。しかしそんな時、この文京高校にあるたくさんの緑を眺め
ていると、自分の気持ちに落ちついてきて、よし、最後までがんば
ろう、という気持ちになって、今日まで通い続けることができました。


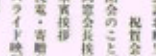

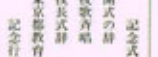

そして、このような気持ちを持てるようになったのも、先生方や
多くの友達を支えがあったからだと思います。卒業しても、文京高
校で学んだ多くのことを、いつまでも恐れずに、未来に向かって大
きくはたいていきたいと考えています。

最後に、文京高校がこれまで培ってきた伝統や校風をより発展さ
せて、さらに素晴らしい良き学舎になるよう心よりお祈り申し上げ
ます。

本日は、おめでとうございました。

平成四年十月十七日



	記念式典 式次第	本校体育館
	開会の辞	来賓挨拶
	校歌斉唱	来賓紹介
	校長式辞	生徒代表のこたば
	東京都区教育委員会挨拶	開式の辞
	記念行事	
	吹奏楽演奏会「ポピュラー音楽50年史」	
	記念講演「感動の魂をまきつけよう」	
	祝賀会次第(第二)	本校新校舎落成式
	開会のこたば	乾杯(乾杯)
	実行委員長挨拶	校長式辞
	来賓挨拶	校長挨拶
	感謝状朗読	開会のこたば
	祝賀会次第(第三)	本校体育館
	開会のこたば	
	同窓会長挨拶	湯島大塚大鼓
	来賓挨拶	(乾杯)
	祝賀・寄贈品紹介	おたのしみ神遊
	スライド映写	閉会のこたば
	乾杯	万歳唱
司会 榎本 望月		

[illegible]



歓談・西村先生を囲んで



祝辞①



祝辞②・菅野二郎先生のご発声



歓談・中屋先生を囲んで



会場全景



歓談・後藤前校長先生と



歓談



テーブルを囲んで



校風店



開会のことば・司会横本氏(左端)



お楽しみ抽選



第40代校長・
福岡孝平先生のご挨拶



アトラクション・高島天神太鼓



テープカット・左から泉校長先生、後藤PTA会長、高沼同窓会長



「文京高校50年の変遷」スライド映写・解説 村本安弘氏



はあまり楽しみが一つないから
ね。勉強が楽しみが一つない
でしたね。映画はいいけど、喫
茶店もいけない、ましてデパートな

いいですね。
ばかりが全てではありません。そんならそれで、みんなが驚くほどの
のボロ儲けをするとか、悪いことじゃなくても、人の考えもしなかつ
たようなところで活躍したり、そういうような人が出てくるとい

Q 三中生時代の思い出からお願ひします。
A 年に八回は試験がありましたね。そして先生がそれ程しごかなく
ても自分で勉強するという生徒が多かったですね。私もね、先生
に言われるより、自分から勉強した方がおもしろかったから、宿題
だけでおわりというのではなくて、自分で勉強していました。数学
なんか二年のときは三年の問題、三年のときは四年の問題をやつて
いましたね。解くのにものすごく時間がかかりましたが、なんとか
やればできるものもあるんですよ。そうすると、授業での先生の話
が実によくわかるんですよ。試験なんか、もつとやってくれという
ような気分が楽しかったです。それでも私はムラがありましたね。
歴史や地理、漢文は苦手でしたね。漢文の前題だけで一日つぶれて
しまうんですよ。もうめんどくさ
くて、おふくろにやってもらった
こともありましたよ。とにかく昔

Q 私たちには耳の痛いお話です。
A とにかく、出来る子は、せっかくもって生まれた能力ですから
ひと足お先に勉強して、伸ばしてあげるといいんじゃないですかね。
それも、先生が、先やれ、と言うのではなく、本人がその気になる
というのが大事。どうやれば、その気にさせられるかが難しいんで
すけれどね。研究室では、今自分のやっている研究が、いかにおも
うらしいか。そしてどういふふうに関心したかということのようなガ
イダンス（指導）を「ああやれ」「こうやれ」と意識して言うのでは
なく与えてきました。何人か博士をとらして、教授になったものもい
ますが、みんなをその気にさせるということをやってきたつもりな
んですよ。その気にさせてしまうと強いですよ。生徒っていうのは
は、自分の好きな勉強でいいんですよ。先へ先へやっていたいとい
う意欲をかきたてて、文京生、がんばってほしいな。なにも進学
ばかりが全てではありません。そんならそれで、みんなが驚くほど
のボロ儲けをするとか、悪いことじゃなくても、人の考えもしなかつ
たようなところで活躍したり、そういうような人が出てくるとい

直撃インタビュー 第17弾 研究大好き学長「学問は高級なホビーだ」

横浜市立大学学長 高杉遼さん

プロフィール

府立高等学校（現・横浜大学）理科乙類、東京大学理学部へ進み、東京大学に助手として勤める。
その後、カリフォルニア大学バークレー校へ研究留学の後、東京大学講師、岡山大学助教授・教授を経て、横
浜市立大学教授へ。学部の後、現在は横浜市立大学学長。



記念撮影



記念撮影（二階生）



万歳三唱・祝賀会世話人代表静谷昭夫氏



開会のことば
実行委員会代表末正明氏



「山」
鍋田 彬（一類C組）



「ヴェネツィア」10号
若林成広（二類A組）



寄贈図書・写真集
田原周太郎（7期C組）



寄贈図書・卒業生著書等

卒業生寄贈品

50周年記念寄贈品の絵画・図書



Q 思い出に残る先生は、どんな方がいらつしやいますか。

A 三中はね、ヒンタ中学。なにかというヒンタ。数学の先生で悪い先生がいまして、先生に指名されるともう上がつちゃって、解けないんですよ。そうすると、パーンとたたかれて益々できない。先生にさせないようには神様に祈っているときに限ってあんなんです。そんな中で、担任の渡辺先生は、よほどでないかぎりヒンタはしなかったです。その頃の三中は、一年から卒業するまでクラス替えなしで担任の先生も最後まで一緒でしたから、先生と生徒の結びつきが非常に強かったですね。ですから卒業して十年たとうが十五年たとうがクラス会は、未だに続いています。それから、当時は教練の先生というて、学校に配属母校が来ているましてね、この先

しました。研究は、やりたいだけやっても、研究費はあまるくらいです。雑用が何もありません。東大にいた時は、ネズミの世話をして、学生の実習を見て、研究はその後ですよ。土曜も日曜も夏休みもなく、元旦も東大へ行って研究していましたから、月火水木金金で実に十年以上やっていました。そこにくくと、アメリカは、ネズミの世話をしてくれる人はいません、研究室へ入ったらずぐ実験ができました。存分に研究ができ、七つの論文を書き、アメリカの雑誌に出しました。

Q 学長という立場から、今の高等教育についてどう思われますか。
A 学長になってみて思ったのは、欧米の大学に比べると日本は、極めて能率が悪く、この急激に変化する世界に対応する高等教育の体制ではないということです。日本が、高等教育にけるお金は、他の先進国に比べると少ないです。それに、今や、アメリカから基礎研究の結果がもたらなくなっちゃったんですよ。日本には基礎がないですから、借り物が多く、それを周知の事実として応用していません。ところが、もう借り物が少なくなってきました。日本にあまり資金がなくなってきました。ある研究では、日本人の研究

者が来ると妻のラベルなんかは、ひっくり返して見せないようにしたり、なるべく日本からより他の国からの留学生を受け入れるようにしているといえます。先端科学技術で諸外国に負けないようにするためには、基礎研究は大事です。基礎研究を企業に任せると利潤がからみずから、五十年たっても百年たっても役に立つ研究なんかしません。そういうものは大抵でしかやらないんです。自分で発見して、応用していく、そして、基礎的な発見というのは、人類の財産として、アメリカにも、ヨーロッパにも、全部公開していくの

生も実にいい先生でした。でも戦犯に問われて死刑になってしまったんですよ。これは忘れられないですね。たぶら部下の責任を取ったんでしょう。だって、あの先生は、生徒をなぐらなかつたですよ。あと、結核で亡くなってしまったんです。河野先生という国語の先生がいまして。この先生の授業での教科書の解説は、目に見えようでした。ほとんどの先生のこととはよく違っていますよ。でも何といっても担任の渡辺先生は四年間一緒でしたからね。しかも、戦争中ですから勤労動員で寝食共にしていました。とにかく、戦争まった中を過ごした四年間ですから、その間の出来事は忘れられません。ものすごく印象深いです。

Q 大学で助手をなさっていた時、アメリカへ留学されたとお聞きしました。

A 助手になってから、ドイツへ留学しようと思い、準備していたんですが、突然教授に呼ばれ、アメリカへ行けと言われたんです。「自分ドイツは経済が復興するまで時間がかかる。今はアメリカだ」と。それに、給料が今の十倍になるっていうんですよ。

五歳の娘とwifeと家族三人で横浜から船に乗って、十日かかって未知の世界へ上陸しました。あの頃のアメリカは、最も繁栄し、経済的、文化的に世界で抜きん出た立場にありました。皆さんは非常に寛大で親切で、敗戦国の若い人を何とかがけようという気持ちで強く、非常にいい時代でした。今は歳を玄關に二つ三つもちけても心配という時代です。我々が行った時は、アパートに鍵はいいりません、どろろはいませんからという具合でした。日本で博士論文をとった研究がネズミを使った基礎医学的な研究でしたので、アメリカへ行った時もネズミを使って、ホルモンと孔ガンの研究を

が大学なんですよ。

学長になる前に、とにかく大学院をと、総合理工学研究所をつくりました。理科系は特に四年間で終わるのは中途半端だと思っただけです。特に、語学に関しては、今は英語などしやべれる人はいませんが、書ける人は少ないです。昔は、予科三年と専門課程三年の六年間の大学教育でして、予科では、語学は毎日しこかれました。まあ、あと来年一年の任期ですけれど一生懸命やっつて、今度は、図書館を作ります。図書館を含めた、総合情報センターといふものを作ります。また、看護婦さんを養成する学校を作らなければならぬといと考えています。

しかし、学長なんかやりたくないんですよ。研究の方がずっとおもしろい。時々、助教の先生のところへ行って、新しいいろいろな話を聞いたり、アドバイスをしているんですけど、それだけじゃどうもね。学者としては情けない話ですよ。口だけなんてね、やはり手が動かないとね。早く学長やめて、どっかの研究所へ行って、研究やりたいんですよ。



今回のインタビューは、一時間半にわたり、横浜市立大学の学長室でお話を伺いました。大変お忙しい中をご協力いただき、ありがとうございました。先生のお話から、自分から一生懸命取り組み、楽しさなんて自然にみついてくるのだ、そんな気がしました。

校風を築かれた五先生

末 正明

一期生組

昭和十五年四月、市立三中草創のため、当時の一中から川島源司校長（一中では教頭職）以下、奥園佐吉・奥田行信・河野孝・川島計治の五先生が揃って転任されました。当時の市立一中は公立校でありながら、府立中学校と一線を画した、市立中学校独自の全人教育（知育に偏しない人間性重視の教育）を、教育施設の完備した校舎や、郊外施設で実践し、高い評価を得ておりました。余談ですが、私は兄が当時の市立一中に在学中であった関係で、五先生には兄弟で二重陶を戴く光栄に浴しました。また私は時々兄に伴われて九段上の一中を訪ね、屋内プールで水泳を楽しみました。また市立一中の父兄参観日には、父に連れられて一中の郊外施設である千葉里興津の至大荘や、多摩川畔の尽性園を見学し、また夏休みの前週などを通じ一中の全人教育の一端を知ることが出来ました。さて、この様に施設完備の市立一中から転任された五先生は、今も健在の佐々木益男先生はじめ草創期の先生方と一緒には、養育院の老朽校舎で、全くの「ゼロ」から、学内施設や校風作りをスタートさせなければなりません。しかし、五先生をはじめとする草創期の先生方は、今にこの学校を日本一の学校にしている。この意気込みで、小学校六年の課程を終えたばかりの私達新入生を、厳しく薫陶されました。五十年前を今振り返り、当時三十代・四十代の先生方が、それぞれの教科の授業や生活指導の面で卓越した知識と

率先垂範の教育実践を、私達一人一人に施して下さった事に、今もつて驚きと感謝の念を禁じ得ません。一例を挙げますと、教科の面では河野孝先生（国語）の特論として「教科書のことだけを教えない教師だ。」とおっしゃり、私達にはつけられずに（豆腐の作り方・流り鳥の語・日本刀の製造と鑑賞法等々）、博学な先生の熱意溢れるご授業振りで二期生本橋一浩君の川島源司伝ご寄稿文より、また放課後の作業実習時には、担任の川島計治先生のご指導による樹木移植作業の段取りで、穴掘り、根切り、こもの巻き方など、作業すべてにわたり自信満々の実技指導。また種草除けに竹べら使用の方法のご説明と指導など、都会育ちの私達生徒にとってすべてが初体験のことばかりでした。また当時は軍事体制下で、課外の一部活動は名目上（報国活動）と呼ばれておりました。しかし当初は未だ軍事色の部活動ではなく、市立一中の初代校長成田千里先生ゆずりの一流好みから、私達三中でも立派な講師の方々をお招きしての素晴らしい部活動教育が展開され、例えばお習字は、当時でも有名な鈴木翠軒先生、謡曲は親流流の四天王の一人浅見重信先生、詩吟は大和流宗家の福井銀城先生、またスポーツの面でも高砂郡屋の佐藤謙規氏が当時の日三役目千寿勝を従えて見えたり、柔道では当時の学生選手権の覇者日大の角田圭持が直接ご指導下さる等、総論・論点・競技・創造・鉄鋼鋼、プラスチックバンドなどの各部もそれぞれに一流の指導者を揃えて大変な盛況でした。生徒の中には正規の授業よりもこの部活動に興味を持ち、目を輝かしていた者が多かったと思います（奥田行信先生追悼集の私の寄稿文より）。しかし市立三中の優渾な部活動も二年間程で廃止され、次第に厳しさを増した戦局と社会情勢下



島区西栗岡に全校舎を回帰されるなど今日の文京高校発展の礎を築かれました。今日豊島区にありながら、文京の校

に、ネクタイ背広の制服もカーキ色の戦時服に衣替えを強制され、全人教育も次第に軍事教練や銃剣術など軍事色の濃いものに要身し、三年生の頃から灰色の学園生活と勤務奉仕、四年生から学徒動員令で軍需工場に工員として徴用され、勤労動員の辛い生活を強制されてしまったことの痛恨の思いが今でも残っておりま。草創時、私達市立三中の師弟が一体で築き上げようとしていた校風も特色も、最後まで続けられた学校給食も食糧事情で廃止となり、校風の至誠一貫が今に残されている唯一の財産となつてしまひました。今当時を

名が残されていることは、奥田行信先生の追悼集のご尽力が如実に語られていると思います。私は文京五十四周年記念誌に奥田先生のこの功績を特筆大書して顕彰すべきだと考えます。

戦後のマッカーサー指令による我が国の教育制度六・三・三・四制の弊害は、単に高校の三年間を中学と大学を結ぶ一通過地点として位置付けてしまつており、日本の教育に多くの問題を起こしつつあります。そしてこの高校教育に最も失われているものに人間教育があります。私は舊て私達が市立三中草創期に施された全人教育即ち、知識のみに偏しない、自然に親しみ、あらゆる芸術文化を享受吸収できる教育の場、即ち国の将来を担う常識豊かな若き都民育成の場としての都立高校教育が施されることを望みます。創立五十二年を経て母校文京高校が理想的な校舎とキャンパスを持つハイスクールとして誕生したことは、私達がから見て福恵の夢があり、心から祝福の辞を述べると共に、文京草創期の諸先生が夢とした舞台作りが完成した現在、教育内容の面で今後の文京高校が、舊ての五先生を軸とし草創期の先生方の目指した全人教育の場として活用されることを望みます。近い将来文部省では、主眼目を休日とする教育方針を実施する予定との事です。さて私達創立初期生は現在それぞれ還暦を過ぎ、後進に道を譲り余生を楽しんでいる方も数多くなつてまいりました。これらOBの諸氏が、母校文京で後進のために主眼日の一日を自らの特技で指導と助力を傾けられるシステム作りを同窓会が早速に検討して頂き、この事の実現により創立初期の諸先生の方々に對する報恩の校風作りをしたい、と願う昨今の私の心情です。（市立一中初代校長成田千里氏伝も参照させて頂きました。）

文化祭

北野学園 昭和32年 自然の恵み
昭和33年10月20日・22日



音楽会



トランク

「本校では昭和33年より校舎の改築工事が始まりました。そして、その仕上げとも言うべき第3期工事として、今年6月より校庭の改修工事が開始されました。しかし、その工法は既存の城生をは切り倒し、新たな本舗となすというものでした。」（文化祭展示コーナー 3期 豊南武蔵の力作 抜粋）



年輪



パン食い競争



集団演技①



集団演技②



フォークダンス



トランクス競走

体育祭

北野学園 昭和32年
昭和33年10月22日



短走競



棒倒し



講演でございます。これは私の一生の光栄であります。

こうした場合、在校生のみならずと有名な人が現われるであろうと心算に期待されたに違ひありません。しかし残念ながら私、末利光はちっとも有名でないばかりか、高校時代の成績も大したものではありませんでした。

文京区本郷町の飯住いの校舎は、これが高校かと思われる位の薄汚いものでした。戦争で母校を焼かれて焼け残った小学校での勉強だったのです。文京高校時代の思い出は、私が美術クラブに所属して学園祭で一番大きな絵を展示したことです。一〇〇号近い大作でボスターカラーを使って仕上げた風景画でした。

実はそれに先だて私は島崎藤村の小説『破産』を読んで急に小説の舞台を訪ねたくなり、同級生二人と信濃めぐりに出掛けました。小諸の『懐古園』に着いた時はもう夕陽が山々の頂を赤く染めていました。いまと違って食べ物もない時代でしたから、近くの小さな店で冷たい菓子のパンの様なものを食べた記憶があります。

『小諸』なる古城のほとり、雲白く遊子恋しむの碑の前に立つと、つくづく平和のありがたみが感ぜられました。こんな香気な旅ができた時代が来ようとは思っていませんでした。その時の『懐古園』から千曲川をはさんだ両山の風景を模写して引き寄せたのが、先哲の文化祭に出展した私の作品だったという訳です。

そういえば私の友人の牧師がこんなことを言っていました。日本では昭和2年生まれの牧師が一番多いんだということです。なぜかというところは敗戦の時は18才。あるいは特攻隊として死んでいった若者です。それが8月15日を境に今度は侵略戦争に担組した人間だということに急に世の中がわからなくなったのです。多感な18才の精神が神に救いを求めた結果だと、その牧師はいうのです。この世代は丁度、本校の一期生のみなさんの世代です。

特攻隊といて、なぜか私は古いニュース映画の中で、お人形を背負い、軍刀のつかには紅白の水ひきを結んでいた姿を思い出します。実際に子ども扱い仕舞った。特攻隊の生き残りの方の話では、お人形はなぜか女の子の人形だそうで、これはお母さんや姉や妹たちのつもりなんだというのです。お国のためというよりも、むしろ母や姉や妹たちを守るんだというて死んでいったといひます。特攻隊年令は16、17、18、19、20才と、丁度みなさんの年代です。早稲田大学文学部ドイツ文学科に籍を置きました。大学時代の私はひとつの試みをしていました。それは自分の好きな文学作品をまる写しにするのです。そしてそれを何度か読んで、英語の構文を覚えるように暗記してしまうのです。後に新田次郎氏にお目にかかった時、偶然同じことをしたと話されて、二人で笑ってしまいました。みなさん是非試してみて下さい。表現力がたちまち養えること請け合いです。英語や歴史年表ばかりが暗記ではありません。私が大学を卒業した昭和30年代前半は大変な就職難でした。たった13人のNKKFアウンサンの募集に数千人が応募したのです。私がなんとかこの就職をくぐり抜けられたのは、大学時代に好きで始

この絵は人気がありました。会う人毎にはめてくれました。疎開先から帰ったばかりで普通課目の成績がおそろしく悪い私は、この絵で初めて自信を持てたのです。そこで私は美術学校に行こうかと考えました。そして学校に通いながら阿佐ヶ谷の画家のアトリエへ通いました。しかしそこで見たものは、あの頃の画家の質しすぎる生活でした。私たちがデッサンをしている隣の部屋で美さんモデルに先生が模範を描いていました。モデルを雇うお金がないのです。しかも食パンの中はデッサンの消しゴムに使ってしまいい、外側の硬い殻をお二人で分け合ってたべているのです。私はそれを見て絵の道に進むのがいやになったのです。

そうそう。忘れていたことがもう一つあります。文京高校の同級生と二人で小諸の『懐古園』に行き藤村の碑の前に立った時、一人の坊さんが向うむきに座禅を組んでいました。私たちが近付くと坊さんはくると振り返って、どこから来たのかと訪ねました。私たちが東京の高校生で藤村に憧れてやってきましたことを告げます。坊さんは大いに喜んで、いまは秋で草がないから、といつて用意したコップの中から一枚の葉を取り出して下唇に当て小諸な……と聞かせてくれたのです。千曲川の川音が草笛に和し、冷たい風があたりの紅葉を散らし、それは涙の出るほどの感動でした。そして坊さんは、お金をとろうとはしませんでした。どこからやって来たのか知らないこの坊さんは、ここに住みついていたというのでした。ことほど左様に、貧しくて絵を描き、乞食のような生活をして文学の感動にひたろうとする。長いながい戦争の後に、いままで味わえなかった芸術や文化の感動にむききり付こうとする人たちの姿が、あの頃はあちこちにみられました。

めた文学作品のまる写しで私に表現能力が養われていたからだとおもうっています。人間好きなことに熱中し、やる気さえ失わなければ必ず仕事は向こうからやってくる。焦るな。これが私の人生哲学です。いま私は甲府盆地の風土病『日本住血吸虫』の研究をしています。出身地の東京を希望しないでここに住みついたのは、これをライフワークにしたがったからです。この病気は日本では新しい患者はなくなりまして、フィリピンや中国ではいまなお流行を極めていす。レイテ島では小学生の1/3がこの病気で卒業が出来る、多くの人たちが命をおとしている実態を見ました。私はそこで働く日本人医師林正高氏とはかって、かつてこの病気で苦しんだ山梨県民がフィリピン人患者一人分の特効薬代金700円を贈る募金活動をはじめました。この運動は僅か四年半で6千万円余りが集まり、少くく見積っても7万6千のフィリピン人の命を救ったといわれています。二度目の私の比島ゆきにはマラカニアン宮殿に招かれ、アキノ大統領の官房長官から山梨県民にあてたお礼のメッセージを託されました。私の小長官がこんな大きな仕事に結び付けたのです。昨年四月の統一地方選挙で私は市民団体の人たちに推されて甲府市長選挙に立候補して敗れました。すさまじい金権選挙の山梨県で私は自分の退職金だけで闘いました。こんな世の中はおかしいと思つたからです。そのことはグリーン選挙、わたしの闘い（講談社）に全てを書きました。どうです。全てが私の予言通りになったではありませんか。人生が感動の連続だとしたら、こんな素晴らしい人生はないと思う。それに次から次へと感動の種をまきつづけることだと思ふ。感動の種をまきつづけるのは、人生の扉はひらかれない。若いみなさんに私はこの言葉を贈りたい。

<p>東京都北区議会議員待遇者 医療法人赤羽病院理事長 代表理事 (元三井物産社長)</p> <p>四 三 はいばら富士雄</p> <p>〒116 東京都北区志茂1-17-13 Tel. 03-3991-8554</p>	<p>丸山歯科医院 歯科医師</p> <p>五 五 丸山 久久磨</p> <p>〒113 東京都文京区本町5-44-2 内・白 宅 Tel. 03-3825-2294</p>	<p>星野家具店</p> <p>五 五 星野 久男</p> <p>五 五 星野 豊美 (旧姓・大田)</p> <p>〒173 東京都板橋区仲台4-4 Tel. 03-3961-9567</p>
<p>ライセンス保険事務所</p> <p>六 六 原 親</p> <p>〒240 東京都平塚市・区佐田町7-4-11-101 白 宅 Tel. 045-332-0673 会 社 Tel. 045-312-5024</p>	<p>津田病院 院長</p> <p>六 六 梶本 伸一</p> <p>〒225 千葉県習志野市津田11-18-45 Tel. 0474-79-2611 Fax. 0474-79-2674</p>	<p>加藤友和建築設計室 一級建築士</p> <p>五 五 加藤 友和</p> <p>〒113 東京都文京区北4-52-36 Tel. 03-3953-4748 〒225 千葉県習志野市本町1-10-89 Tel. 0474-474-2885</p>
<p>株式会社 サトウケミカル 医薬部外品製造販売/化粧品製造販売</p> <p>七 七 佐藤 佳男</p> <p>〒302 岡崎市大字8-16-7 会 社 Tel. 048-481-2323 白 宅 Tel. 048-474-8456</p>	<p>富士写真フイルム株式会社 プロフェッショナル写真部課長</p> <p>七 七 杉本 安弘</p> <p>〒106 東京都港区西麻布2-26-30 Tel. 03-3406-2068 Fax. 03-3406-2140 〒174 東京都板橋区小豆沢4-11-3 Tel. 03-3966-6056</p>	<p>株式会社 トキタ 代表取締役</p> <p>五 五 時田 公代</p> <p>本社 〒174 東京都板橋区南町1-17-19 トキタビル Tel. 03-3960-7701 Fax. 03-3558-6980</p>
<p>日東不動産株式会社 (東京都港区有明) 三井不動産販売㈱特約店 業務取締役</p> <p>七 七 望月 康男</p> <p>〒103 東京都目黒区下目黒1-3-17 アモンド目黒ビル Tel. 03-3491-0171 Fax. 03-3491-1255</p>	<p>大橋特許事務所 弁理士</p> <p>七 七 大橋 邦彦</p> <p>〒113 東京都文京区本郷3-30-9 本郷2ビル 事務所 Tel. 03-3834-5821 白 宅 Tel. 03-3957-1333</p>	<p>株式会社 高瀬商店 (横浜・東京) 代表取締役</p> <p>五 五 斉藤 智夫</p> <p>〒112 東京都文京区自由山5-1-15 Tel. 03-3815-3271 Fax. 03-3815-2896 Tel. 03-3815-8025</p>
<p>株式会社 村口計画設計事務所 所長・一級建築士・日本工科大学 建築学科教授</p> <p>五 五 村口 昌之</p> <p>〒150 東京都渋谷区神宮前3-7-1 マリンビル502 Tel. 03-3402-2420 Fax. 03-3402-2512</p>	<p>野中道徳理事事務所 所長・一級建築士、野中道徳 建築士(一)</p> <p>五 五 野中 滋</p> <p>事務所 〒170 東京都豊島区駒込1-3-6 アザリア駒込802 〒102 東京都千代田区千代田1-3-10 〒113 東京都文京区本郷3-30-9 Tel. 03-3834-5821 白 宅 Tel. 03-3957-1333</p>	<p>虎の門 日比谷クリニック (医療部・診療部、野中道徳 建築士(一))</p> <p>五 五 山中 孝男</p> <p>〒113 東京都文京区自由山5-1-15 Tel. 03-3815-3271 Fax. 03-3815-2896 Tel. 03-3815-8025</p>
<p>株式会社 経営開発センター (経営訓練・指導・研修・調査) 代表取締役</p> <p>五 五 中村 昌男</p> <p>研究所 〒103 東京都千代田区神田神保町12-3-101 Tel. 03-3295-8363 Fax. 03-3295-8050</p>	<p>宮本智法律事務所</p> <p>五 五 宮本 智</p> <p>〒109 東京都新宿区大塚町1-8-23 アムハートビル7F 会 社 Tel. 03-3386-0810 白 宅 Tel. 03-3386-0810</p>	<p>小林学習塾</p> <p>五 五 小林 一夫</p> <p>〒174 東京都板橋区東山町5-13 Tel. & Fax. 03-3972-1227</p>
<p>18年間毎月開いている同窓有志のサロン 会 社 三 井 物 産 有 限 公 司 〒100 東京都千代田区千代田1-3-1 会 社 Tel. 03-3295-8363 Fax. 03-3295-8050</p>	<p>野球部OB会 都立文京高校球楽会 会長 16 日 土屋 昌昭 会員一同</p>	<p>都立文京高校 PTA OB会 文 京 会 会長 16 日 土屋 昌昭 会員一同</p>

<p>日本スチンドル製造株式会社 社長</p> <p>五 五 若林 義朗</p> <p>本社 〒661 尼崎市南江4-2-30 Tel. 06-499-5551 〒541 大阪市中央区東船場1-3-8 船場会館 Tel. 06-263-4801</p>	<p>秋葉原運輸株式会社 代表取締役</p> <p>五 五 若林 義朗</p> <p>〒104 東京都千代田区神田旭町1-8 ニュー千代田ビル602 Tel. 03-3261-7513 Fax. 03-3251-8036 白 宅 Tel. 03-3961-4000</p>	<p>弁護士 二 二 原田 策司</p> <p>事務所 〒104 東京都中央区銀座7-5-4 毛利ビル4F Tel. 03-3571-1780 白 宅 〒145 東京都大田区上池台3-30-1</p>
<p>有限会社 白金グレース 代表取締役</p> <p>五 五 今泉 勝彦</p> <p>〒108 東京都港区白金2-7-23 Tel. 03-3446-7520</p>	<p>示現会 (注) 代表取締役</p> <p>五 五 若林 成佳</p> <p>〒104 東京都千代田区神田旭町1-8 ニュー千代田ビル608 Tel. 03-3255-5973</p>	<p>小室産婦人科医院 院長</p> <p>五 五 小室 陽一</p> <p>〒114 東京都北区岸町1-12-22 病院 Tel. 03-3967-6333 白 宅 Tel. 03-3967-6380</p>
<p>株式会社 ハ 洲 代表取締役</p> <p>五 五 川上 光男</p> <p>〒114 東京都北区本町2-11-6 会 社 Tel. 03-3899-3211 白 宅 Tel. 03-3895-2839</p>	<p>有限会社 池谷製作所 (注) 代表取締役</p> <p>五 五 池谷 利一</p> <p>〒109 東京都新宿区大久保2-13-1 Tel. 03-3209-8631</p>	<p>河合楽器株式会社 取締役</p> <p>五 五 柴田 哲夫</p> <p>白 宅 〒153 東京都目黒区中町1-7-1 Tel. 03-3719-0520</p>
<p>株式会社 池谷製作所 (注) 代表取締役</p> <p>五 五 池谷 利一</p> <p>〒109 東京都新宿区大久保2-13-1 Tel. 03-3209-8631</p>	<p>株式会社 大田会 (注) 代表取締役</p> <p>五 五 大田 聖造</p> <p>〒104 東京都千代田区神田旭町1-8 Tel. 03-3261-7513 Fax. 03-3251-8036 白 宅 Tel. 03-3961-4000</p>	<p>静谷クリニック (内科)</p> <p>五 五 静谷 晴夫</p> <p>〒170 東京都豊島区西巣鴨4-6-2 病院 Tel. 03-3815-3271 白 宅 Tel. 03-3815-8025</p>
<p>株式会社 大田会 (注) 代表取締役</p> <p>五 五 大田 聖造</p> <p>〒104 東京都千代田区神田旭町1-8 Tel. 03-3261-7513 Fax. 03-3251-8036 白 宅 Tel. 03-3961-4000</p>	<p>医療法人 社田湖会 理事長</p> <p>五 五 湖田 聖造</p> <p>〒104 東京都千代田区神田旭町1-8 Tel. 03-3261-7513 Fax. 03-3251-8036 白 宅 Tel. 03-3961-4000</p>	<p>静谷産科医院 (産科一科)</p> <p>五 五 静谷 栄夫</p> <p>〒170 東京都豊島区西巣鴨4-6-2 病院 Tel. 03-3815-3271 白 宅 Tel. 03-3815-8025</p>
<p>フリー ジャーナリスト (注) 代表取締役</p> <p>五 五 末 利光</p> <p>〒109 東京都新宿区大久保2-13-1 Tel. 03-3209-8631</p>	<p>二 二 樋口 良雄</p> <p>〒112 東京都文京区西目黒1-24-11 Tel. 03-3942-0450</p>	<p>一ツ橋印刷株式会社 代表取締役</p> <p>五 五 菊池 達長</p> <p>白 宅 〒237 神奈川県横浜西区6-21-10 Tel. 0468-66-1493</p>
<p>社団法人 日本吟道学院 総裁</p> <p>五 五 渡辺 吟時</p> <p>〒113 東京都文京区西片2-12-23 Tel. 03-5684-0124</p>	<p>二 二 渡辺 剛彰</p> <p>〒113 東京都文京区西片2-12-23 Tel. 03-3811-2989</p>	<p>二 二 渡辺 剛彰</p> <p>〒113 東京都文京区西片2-12-23 Tel. 03-3811-2989</p>